

石炭マーケット研究会報告書（概要）

【石炭マーケットの現状】

平成30年4月

- 資源を海外に依存する我が国にとって、「安定供給性」と「経済性」に優れた**石炭のエネルギー源としての役割は引き続き大きい**。
- 近年、**中国・インドの輸入量増加や石炭メジャーによる上流権益の寡占化**等により、**我が国の輸入国としての相対的地位は低下**してきている。
- 世界では短期・スポット取引が増えてきている。日本企業が一定の主導権を握って石炭サプライヤーと固定価格で契約してきた状況は変わりつつあり、**短期・スポット取引の価格を反映したインデックス価格が長期固定価格に影響を与える**ようになってきている。

【課題】

- 現在、短期・スポット取引の規模は小さく、**一国の政策動向や需給動向により価格変動が発生しやすくなっており**、需給が必ずしも価格に適切に反映されておらず、**我が国の取引実態に見合った適切な価格が発信されていない**との指摘がある。
- 電力小売り全面自由化や再エネ導入拡大等により、**一般炭の調達にも柔軟性やコスト削減が求められる**ことになる。
- 日本企業は、制度や設備の制約等から、主に高品位炭を使用しており、石炭メジャーによる**高品位炭の寡占化が進めば、将来の価格交渉への影響も懸念**される。
- 世界の石炭取引は長期取引に代わり、**短期・スポット取引が増えてきており**、こうした状況を踏まえ、我が国の石炭ユーザーも**短期・スポット取引への対応を考えていく必要がある**。
- スポット取引と長期取引の効果的な組み合わせや、市況に応じた転売、価格ヘッジ等を用いて、燃料調達を最適化させることによって、**日本の資源調達コストの低廉化と安定化につなげていくことが必要**となってきている。



【今後の取組】

短期・スポット取引の拡大

- **スポット取引・市場の拡大**
 - ・グローバルコールでの取引拡大。
 - ・仕向地制限の撤廃。
- **スポット市場の透明性向上**
 - ・積極的なスポット取引への参加、情報提供等による価格指標の改善。
- **原料炭スポット取引・市場の活性化**
 - ・グローバルコールの利用。
- **石炭先物市場の創設**
 - ・先物市場の在り方等の検討。

石炭調達の柔軟性確保

- **低品位炭の活用**
 - ・垂瀝青炭や硫黄分の多い原料炭等の活用。
- **低品位炭利用時の制度・設備面の対応**
 - ・燃調制度、省エネ法、石石税の算定方法の検討。
 - ・燃焼設備、貯炭設備の制約解決、最新環境設備の導入。
- **技術導入による使用可能炭種の拡大**
 - ・昇温抑制技術の開発、褐炭の活用等

石炭調達の交渉力拡大

- **石炭政策・需給動向等の情報収集や発信のあり方**
 - ・JOGMECの情報提供機能強化。
- **石炭調達先の多角化**
 - ・石炭上流権益の獲得。
 - ・JOGMECによる地質構造調査やリスクマネーの供給。
- **適切な輸入価格の発信**
 - ・貿易統計の分類改善 等

石炭マーケット研究会：平成29年11月～平成30年4月まで非公開にて計4回開催。委員はユーザーである電力会社・鉄鋼会社、生産者、商社及び取引所や学識者。石炭マーケットが抱える課題を明らかにするとともに、課題解決に向けた今後の取組方策についての整理を行った。